令和７年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　やまなみ会

（施設名）福祉サービスセンターほっと館

居宅介護支援事業所

通所介護事業所

目　次

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　全体状況報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1　重点項目（目標）に対する報告及び考察
2　職員状況（人員、資格取得、研修等）
3　防災・防火訓練報告

Ⅲ　個別事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1　居宅介護支援事業所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（1）事業の取組み
（2）課題・次年度への提起

2　通所介護事業所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（1）事業の取組み
（2）課題・次年度への提起

3　産山村委託業務　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（1）事業の取組み
（2）課題・次年度への提起

Ⅰ　はじめに

令和７年度は職員の異動や利用者の利用中止等が重なり、思うように利用者数を伸ばす事が出来ませんでした。安定した利用者確保のためにも「サービスの質の向上」「ご利用者満足」「職員の資質向上」に努め、利用者が安心して住み慣れた地域での生活を続けられるよう取り組んでまいります。

Ⅱ　　全体状況報告

１．　重点項目（目標）に対する報告及び考察

宅介護支援事業所におきましては、職員の異動で支援件数が減少した事、及び介護予防が一部を残し村に移管された事もあり報酬減となりました。通所介護事業所におきましては、利用者の入院・施設入所が相次ぎ、利用者数・報酬を伸ばすことができず、全体の介護報酬は昨年度に比べ減少しました。高齢者の在宅生活を支えるために介護の重度化防止がより重要であることが実感できました。

今後も関係機関との連携を密に行い、支援を必要としている人に早期にサービスの提供を実施し、利用者のニーズや意見を的確に捉えた質の高いサービスを提供する事が重要と考えます。

利用者数及び介護報酬等の推移

利用者数等／年度	令和７年度	令和６年度	令和５年度
居宅介護利用者（介護）	１，０６７人	１，３２１人	１，００７人
居宅介護利用者（予防）	２２人	２９３人	１９３人
居宅介護報酬	14,205,020 円	18,705,790 円	14,156,046 円
通所介護利用者	５，３９４人	５，３４５人	４，５０２人
通所介護報酬	39,147,513 円	37,026,194 円	31,436,483 円
介護報酬の合計	53,352,533 円	55,731,984 円	45,592,529 円

２．　職員状況（人員、資格取得、研修等）

（１）人員

事業所等	職員数	有資格者数
施設長	1（1）	主任介護支援専門員 1（1）
居宅介護支援事業所	3（2）	介護支援専門員 3（2）
通所介護事業所	8（5）	介護福祉士 2（1）准看護師 3（3）
通所　厨房	3（3）	
外出支援　運転手	2（2）	福祉車両 2（2）
計	17（13）	11　（9）

（　　）は内数で非常勤及び嘱託職員の数　　令和 8.3.31 現在

（2）研修について

外部研修課　（対面）

研修日	研修内容
令和７年 10 月	「パーキンソン病と類縁疾患」…阿蘇医療センター地域連携の会
令和７年　６月 介護支援専門員研修１	熊本県介護支援専門員阿蘇支部研修 「柴三郎号」の四季 ～地域とともに走る医療 MaaS のかたち～
令和７年８月 介護支援専門員研修２	「誰もが住み慣れた地域で臨む暮らしを守る」 ～権利擁護と青年後見人制度～
令和７年 11 月 介護支援専門員研修３	「在宅で幸せなお看取りをするために大切なこと」
令和８年　２月 介護支援専門員研修４	［ハンセン病問題と人権］

内部研修（オンライン）

修日	研修内容
令和７年４月/5 月	倫理法令遵守 / 入浴介助
令和７年６月/7 月	認知ケア/感染症・中毒症のまん延防止
令和７年８月/9 月	プライバシー保護/事故防止
令和７年 10 月/11 月	虐待防止/介護予防及び要介護度進行予防
令和７年 12 月/1 月	緊急対応/身体拘束
令和７年　２月/3 月	非常災害時の対応/メンタルヘルス・マネジメント

３．防災・防火訓練報告

年度内２回の自衛消防訓練の実施及び、避難経路や消火設備の点検を行いました。

。期日	内容	備考
令和７年 10 月 7 日	自衛消防訓練	通報訓練・避難訓練
令和８年 3 月 24 日	自衛消防訓練	総合訓練

期日	内容	備考
令和７年９月 10 日	消防用設備等点検	点検業者オオノ防災
令和８年３月　６日	消防用設備等点検	点検業者オオノ防災

Ⅲ　個別事業報告

１．　居宅介護支援事業所

（１）事業の取り組みについて

①　介護を必要としている方へ迅速・適切なサービス提供

・産山村包括支援センター及び産山村健康福祉課からの情報収集と情報交換は適切に行いました。

・産山村地域ケア会議における、事例検討会では、困難事例を提出し参加者の助言や意見等を聞く事でケアマネジメント力の向上につなげた。

・なでしこの里と情報を共有し、迅速なサービスの提供を行いました。

②　総合支援事業の業務の円滑化

・　産山村における総合支援事業については、村との情報交換を十分行い対応できました。

・　通所介護事業所等と連携し、村独自のサービスである食の自立支援や外出支援サービス等を活用することで、高齢者の在宅生活の安定につながりました。

③　利用状況

・　本年度年間延べ 1,089 件（前年度 1,614 件）の居宅介護支援をおこなった。月平均にすると要介護 89 件（目標 100 件)、介護予防 2 件となりました。

（２）課題・次年度への提起

・要介護者の増加や介護の担い手不足など、高齢者福祉をとりまく環境は厳しさを増しており、事業所としても、今ある社会資源の活用や他の事業所等との連携を行い、利用者の自立支援・重度化防止に努めていくこととします。

２． 通所介護事業所

（１）事業の取り組みについて

① 利用者の獲得を目指すための取り組み

・感染症対策を十分に行ったうえで外出行事を行いました。
・年間行事計画に沿い、毎月の誕生会や季節を感じる壁画作成やレク・行事などを企画し提供しました。
・クラブ活動（手芸・カラオケ・園芸）の充実を図り、利用者の意欲向上に繋げました。
・オンラインレクを活用し、利用者に新鮮で多様なレクを提供しました。

② 利用者の心身の維持・向上を目指すための取り組み

・利用時の健康チェック・入浴時の身体観察、日中の様子観察に努め、利用者の心身の異常の早期発見・早期対応ができました。
・外部のリハビリ専門職と連携し、利用者に合わせた心身機能の維持・向上を図る機能訓練を提供できました。

③ その他の取り組み

・ 産山学園子供ヘルパー訪問、ヒゴタイ交流学生訪問、ボランティアグループ訪問を受け入れ地域交流ができました。
・広報うぶやま・ほっと館通信により、館内での利用者の様子・活動内容などを村民やご家族に知らせることができました。

④ 利用状況

① デイサービス平均利用人数（１日あたり）平均利用人数 17.4 名　平均稼働率　69.6%

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	延べ数
延べ人数	476	479	480	529	478	443	460	444	401	378	406	420	5,394
稼働率	73.2	71.0	76.8	78.4	73.5	68.2	68.2	71.0	59.4	63.0	67.7	64.6	69.6

7 月に利用者数のピークを迎えたが、その後は利用者の入院、ショート利用、特養入所、死亡などが続き減少している。台風などの影響によるデイ休館はなかったが、コロナや結膜炎などの感染症によりデイサービスを休まれる方が数名おられた。平均稼働率は昨年度 69.9%→今年度 69,6%となった。

・年間利用延べ人数状況（定員 25 名）

年間延べ利用者数 5,394 名で前年度と比較すると 49 名の微増となった。

（２）課題・次年度への提起

今後も高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため介護、医療、生活支援、介護予防の充実が必要となる。外部の専門職とこれまで以上に連携し、リハビリの充実を図り趣味活動や感染症予防に配慮した行事を行うなど、利用者の介護の重度化を防ぎ、より良い在宅生活を継続できるよう支援していきます。

３． 産山村委託業務

（１）事業の取組み

事業名	令和７年度	令和６年度	令和５年度
外出支援（市内）	３３５（８４）件	３８７（９１）件	５０１（１０５）件
配食サービス	1,433 食	1,411 食	1,312 食
輝き教室	５０　回	４９　回	４９　回
相談業務	８　件	１１　件	３９　件
軽度生活	０　回	０　回	１４１　回
受託料	5,023,360 円	5,299,130 円	6,356,460 円

・外出支援、軽度生活支援サービスなどの需要の減少とともに受託料も年々減少している。

（２） 課題・次年度への提起

村の委託事業は、介護保険ではカバーしきれない利用者への生活支援として重要な位置づけがなされており、地域ケア会議等により地域住民の実態把握や関係機関と情報の共有化を図り、介護が必要な方への迅速なサービス提供へとつなげていきます。